

# 保育における子どもの身体表現活動の源流

## ～ リズム活動を中心に ～

The Origin of Rhythmic Movement Activities in Kindergarten

持 田 葉 子\*

### 要 約

本稿では、日本の保育における身体表現活動、とりわけ、大正期に土川五郎や石原キクによって保育に取り入れられた「リズム」に焦点を当てた身体表現活動の源流を探るべく、20世紀初期の米国幼稚園におけるリズム活動の特徴について、当時出版された3つの器楽曲集を通して考察した。その結果、子どもの身体発達を促すために、身体を大きく動かす活動が取り入れられ、またそれらを音楽のリズムと共に行うことによって、身体調整能力を育てようとしていたこと、また子どもの生活に身近な自然や事象、物や遊びを音楽と共に身体で模倣することを通して、社会の認識を深めようとしていたことが明らかになった。このような内容は、当時台頭していた進歩主義教育の理念と共通しており、リズム活動は、進歩主義教育の理念の中から発展してきたものであることが伺えた。

キーワード：身体表現、リズム、米国20世紀初期

## 1 はじめに

保育者を目指す学生の実習視察のために、幼稚園などを訪問すると、よく保育者のピアノ伴奏と共に、子どもたちが歩いたり、スキップしたり、また動物など身近なものの模倣表現をする場面に出会う。それらは、「リズム活動」「リズム表現」「律動」などの活動名で行われていることが多い。筆者自身も、保育者としてそうした活動を行っていた経験がある。

保育内容としての身体表現活動は、平成元年に幼稚園教育要領が改定されて以来、領域「表現」の中に含まれることとなり、身体表現にかかわる内容としては、「(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気づいたり、感じたりするなどして楽しむ」「(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」(傍線筆者) などがあるが、いずれもその中には、「リズム」という言葉はない。しかし、前述したように保育現場においては、様々な形で「リズム」に着目した身体活動が現在でも行われており、

それは、大正期に「リズム」の観点が持ち込まれて以来、長い歴史を経て保育に浸透しているからであろう。

現行の領域「表現」においては、子どもの感性と表現する力を養い、創造性を豊かにすることが目標とされている。領域「表現」からリズムという言葉は消えているが、動きとリズムは、密接な関係を持っている。動きという媒体を通して、子どもの表現する意欲、また豊かな感性と表現する力を養うことを考えた時、保育の中に浸透している身体によるリズム活動が、子どもの育ちにとって果たす役割や位置づけについて改めて見直し、整理する必要があるのではないだろうか。

そこで、本稿では、「リズム活動」がどのような変遷をたどって日本の保育に定着していったのかを明らかにするために、まずその源流を20世紀初期の米国に求めたい。なぜなら大正期に日本に持ち込まれた「リズム」という視点は、米国の影響を受けているからである。

日本の保育の中に初めて「リズム」という観点を持ち込んだのは、大正期に『律動遊戯』を考案、発

---

\* Yoko MOCHIDA 聖和短期大学 准教授

行した土川五郎（1871～1947）と「律動」を教えた石原キクであると言われている<sup>1)</sup>。土川は、明治期に始まった唱歌遊戯について、動作が小さく委縮して活動量が不足している、運動感覚が欠如し表情が主知的に傾いている、等の問題点をあげ、基本筋肉を使って十分に大なる運動をすること、運動感覚から情緒を惹起することを提唱し<sup>2)</sup>、また「リズムは幼児の筋肉を振動する力を持っている、しかも愉快的感情を興うるものである。」と述べ<sup>3)</sup>、当時の米国におけるリズム活動を参考にしながら<sup>4)</sup>、独自の方法を開拓し、それまで日本にはなかった新しい息吹を吹き込んだ。

土川とはほぼ同時代に「律動」を保育に取り入れた石原キクは、2度米国に留学し、2回目の1917（大正6）年から1920（大正9）年の留学では、コロンビア大学大学院で最新の保育を学んだ<sup>5)</sup>。石原は「森羅万象すべてリズムをもつと同時に人間もまた一人ひとりのリズムをもっている。従って、育ち盛りの幼児の手、足、頭を楽しい音楽に合わせてリズムカルに動かすことにより、その発育を促す。」また「自然現象を体で表現するうちに、幼児の身体の骨格、筋肉、神経系の発達を促し、同時に自然への認識を深め育てていく。」<sup>6)</sup>とし、生のピアノに合わせて園児の動きを見ながらピアノを弾いた。ちなみに「さくら・さくらんぼのリズム」の斎藤公子は、石原の影響を受けている<sup>7)</sup>。

また、同じく大正期、キリスト教主義幼稚園である広島女学校附属幼稚園では、米国で進歩主義教育を学んだ宣教師たちによって、器楽（ピアノ）曲と共にスキップやジャンプ等を行うリズムカルな活動や、子どもの伸び伸びとした動きや表現の自由性を尊重した活動が行われており<sup>8)</sup>、それは土川にも少なからず影響を与えていた<sup>9)</sup>。

このように、大正期において、土川や石原、キリスト教主義幼稚園によってもたらされた「リズム」の視点を持った身体活動は、米国の影響を受けており、その源流は20世紀初期の米国にあったことが伺える。では、その米国におけるリズム活動は、どのような内容であったのだろうか。

本稿では、当時米国で出版されたリズム活動のための器楽曲集を分析することを通して、日本の保育に影響を与えた米国の20世紀初期における幼稚園の身体によるリズム活動の内容を明らかにしたい。

## 2 20世紀初期における米国の幼稚園の音楽活動

20世紀初期のアメリカの幼児教育は、1870年代から発展したアメリカ幼稚園運動におけるフレーベル主義保守派と、それを批判する進歩主義派の論争が起こり、新教育運動が急速に発展した時期である。進歩主義派のケンタッキー州ルイヴィル幼稚園教師であったブライアン（Bryan, A. E.）は、1890年の全米教育協会（N. E. A.）での「文字は人を殺す」という演説で、ブロー（Blow, S. E.）に代表されるフレーベル主義保守派に対し、余りにも形式的にフレーベルの恩物、手技を踏襲し、子ども自身による遊びの自己決定が不足しているとして批判した。ブライアンと、同じくルイヴィルの教師であったヒル（Hill, P. S.）らは、デューイ（Dewey, J.）やキルパトリック（Kilpatrick, W. H.）の生活主義的な教育理論、またホール（Stanley Hall, G.）やソーンダイク（Thorndike, L. E.）らによる新しい心理学による学習過程理論を理論的根拠として実践を行った。この保守派と進歩主義派による論争は、国際幼稚園連盟において1903年に設置された19人委員会において行われ、1913年に報告書が出版されたが、論争は

1) 二宮紀子（2014）「リズム活動に見られる模倣表現に関する考察その1」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第25号 p. 22

2) 土川五郎（1917）「幼稚園の遊戯に就て」『婦人と子ども』17巻9号 pp. 330-336

3) 土川五郎（1918）「リズムについて」『婦人と子ども』18巻2号 p. 46

4) 土川は「律動遊戯の過去及将来」の中で、米国のカーチスの『遊戯を通じての教育』やホッファーのフォークダンスの書等を参照したことを述べている。

「律動遊戯の過去及将来」（1918）『婦人と子ども』18巻4号 pp. 134-138

5) 高橋フミ（1979）「石原キク先生（人につづる保育史）」『幼児の教育』第78巻第9号 pp. 22-27

6) 中島弘子、草吹育子、鈴木智子（2001）「『律動』に見る石原キクの保育理念」彰栄表現研究所紀要第1号 p. 29

7) 斎藤公子（1994）「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社 p. 28

8) 持田葉子（2015）「広島女学校附属幼稚園における音楽活動について～広島女学校附属幼稚園・保姆師範科編纂『遊戯唱歌』の考察を通して～」聖和短期大学紀要第1号 pp. 39-47

9) 「律動遊戯の過去及将来」（1918）『婦人と子ども』11巻4号 p. 136

土川はこの中で、『廣島の遊戯は中々参考になる。其曲の選び方は幼児に適している』とし、土川の「律動遊戯」にブランコを引用したことを述べている。

進歩主義派の勝利に終わり、以降米国の幼稚園は進歩主義教育の黄金期を迎えるのである。その流れの中で国際幼稚園連盟は、全米の幼稚園の教育内容の標準化を目指し、1919年に『幼稚園カリキュラム』(*The Kindergarten Curriculum*)を発行した。

では、こうした教育運動の流れの中で、幼稚園の音楽活動はどのように変化していたのであろうか。

井本は、20世紀初期の米国における幼稚園の音楽活動の諸相を明らかにするために、1897年から1916年までの雑誌『キンダーガーテン・レビュー』(*Kindergarten Review*)に掲載された音楽に関する記事を分析している<sup>10)</sup>。その結果、20世紀初期の米国における音楽活動では、歌唱、リズムに合わせた動作、楽器を用いた遊び、さらに歌の創作も行われていたことを明らかにしている。

また同じく井本は<sup>11)</sup>、『幼稚園カリキュラム』(*The Kindergarten Curriculum* 1919年)と『幼稚園と第1学年のカリキュラム』(*A Kindergarten-First-Grade Curriculum* 1922年発行)における音楽カリキュラムを考察し、主要な活動内容として「歌唱」「リズムへの反応」「創作」があり、これらの活動を通して鑑賞能力を育むことが目指されていたとしている。さらに、音楽カリキュラムは、社会性・創造性・身体感覚を養うねらいがあったことを明らかにしている。

### 3 20世紀初期における幼稚園のリズム活動について

#### 3-1 リズム活動のための器楽曲集

ここでは、この時期に出版されたリズム活動用の器楽曲集の内容や、また曲集の序文に示された事柄から、リズム活動の特徴について明らかにしたい。

この時期の米国の幼稚園向けの音楽教材について、バンデウォーカー (Vandewalker, Nina C.) は、米国における歌の本の出版は、1880年代から始まり、歌の本の充実後に、マーチ等のための器楽曲集が出版されたと述べている。またこうした器楽曲は、子どもたちに音楽的解釈の刺激を与え、幼稚園の音楽レパートリーに豊かさを与えたとも述べ、次の2点の器楽曲集を紹介している<sup>12)</sup>。

・アンダーソン (Anderson, Clara L.) 『器楽による典型リズム集』(*Instrumental Characteristic Rhythms*) (1896)

・ホッファー (Hofer, Mari R.)<sup>13)</sup> 『子どもの世界のための音楽』(*Music for the Child World, Vol. I, II, III*) (Vol. I 1900, Vol. II 1902, Vol. III 1911)

前者は、クック群師範学校 (The Cook County Normal school)<sup>14)</sup> の幼稚園でピアノ奏者として子どもたちのリズム活動を援助したアンダーソンによって作曲された作品集で、クック群師範学校校長であったパーカー (Parker, Francis W.) に献呈されている。なお本書の続編が、後にパートⅡ (1900) とパートⅢ (1905) として出版されている。

また後者は、ホッファー編纂の幼稚園のための器楽 (ピアノ) 曲集である。この器楽曲集については、土川五郎も著作の中で推薦している<sup>15)</sup>。本書は、3巻で構成されており、第1巻「特徴的な情景と素描曲」、第2巻「リズム、マーチとゲーム」、第3巻「音楽的物語と絵本」となっている。第1巻は1900年、第2巻は1902年、第3巻は少し間隔があいて1911年に出版されている。いずれもピアノ曲が掲載されており、グルリットなど、著名な作曲家の作品からリズム活動に合うものが選ばれ、音楽的な質の良さを持っている。雑誌『キンダーガーテン・レビュー』

10) 井本美穂 (2015) 「20世紀初期の米国における幼稚園の音楽活動—雑誌『キンダーガーテン・レビュー』の検討を通して—」中国四国教育学会教育学研究紀要 第61巻 pp. 131-136

11) 井本美穂 (2014) 「米国の20世紀初期における幼稚園音楽カリキュラム—『幼稚園カリキュラム』『幼稚園と第1学年のカリキュラム』における音楽の位置づけ—」音楽学習研究第10巻 pp. 73-84

12) Vandewalker, Nina C. (1908) *The Kindergarten in American Education* The Macmillan Co. pp. 175-176  
ニーナ・C・バンデウォーカー著 中谷彪訳 (1987) アメリカ幼稚園発達史 教育開発研究所 pp. 155-156.

13) Hofer, Mari R. (1866-1929) ホッファーは、イリノイ州の Mount Carroll Seminary で文学と声楽を専攻し、その後、シカゴで音楽家、音楽教育家であるトムリン (Tomlins, William L.) の下で勉強を続け、同時に声楽講師として、シカゴ無償幼稚園とシカゴ幼稚園教師養成学校と関わるようになる。ここで、彼女はパーカー (Colonel Parker)、ハリソン (Harrison) などのようなリーダーの下、西部における新教育の最も進んだ考えに触れた。またホッファーは、シカゴのセツルメント運動において、歌やダンス等を通じて、子どもたちの教育に多大な役割を果たしたと同時に、多くの幼稚園教師養成学校でも教え、出版物も大変多く、当時の幼稚園における音楽教育を豊かなものにした功労者の一人であると言える。

14) 1896年からは、シカゴ師範学校 (The Chicago Normal school) に改名

15) 土川五郎 (1918) 「律動遊戯の過去及将来」『婦人と子ども』18巻4号 p. 138

(*Kindergarten Review*) に第1巻についての書評が掲載されているが<sup>16)</sup>、それによると、「幼稚園の教師は、子どもたちの想像を誘発するような音楽を、優れた作曲家の曲から選んで弾いてあげなさい、そして自然や毎日の生活の中に溢れている音とリズムを音楽的な形で示してあげなさい、と言われているが、自分たちでそのような曲を探すことは、音楽家ではない教師には難しかった。しかし、今教師に喜ばしい日が来た」と述べられ、幼稚園の教師たちにとっては、待ちに待った内容であったことが伺える。

さらに、ビーベ (Beebe, Katherine) は、幼稚園での器楽教材として、先にあげた2つの他に、モンツ (Montz, Katharine) の『幼稚園教師のための器楽小品集』(*Instrumental Sketches for Kindergarten*) (1894) をあげている<sup>17)</sup>。この曲集は、進歩主義派のブライアンやヒルがいたルイヴィルの幼稚園 (Louisville Kindergarten) における実践から生まれたもので、雑誌『キンダーガーテン・レビュー』(*The Kindergarten News*) (1894) において本書の序文が紹介されている<sup>18)</sup>。

本稿では、上記にあげた3種類の器楽曲集が、当時の代表的なものであると推察されることから、モンツ『幼稚園教師のための器楽小品集』(1894)、アンダーソン『器楽による典型リズム集』(1896)、ホッファー『子どもの世界のための音楽第2巻：リズム、マーチとゲーム』(1902)、の3つの曲集を分析の対象とする。

### 3-2 各曲集の内容

#### (1) モンツ『幼稚園教師のための器楽小品集』(1894)<sup>19)</sup>

モンツの曲集には全部で36の曲があり、その内容は表1の通りである。行進やスキップ、跳ぶ、静かな曲以外は、動物や花、自然現象、生活や仕事などの身近な環境にあるものを描写している曲が多い。

#### (2) アンダーソン『器楽による典型リズム集』(1896)<sup>20)</sup>

本書に掲載されている曲は、表2の通りである。全部で20曲あり、モンツの曲集と同じように、行進とスキップのための曲、そして自然や身近なものを描写している曲があるが、モンツの曲集と比較して、行進とスキップの曲の割合が多い。

#### (3) ホッファー『子どもの世界のための音楽第2巻リズム、マーチとゲーム』(1902)<sup>21)</sup>

本書の掲載曲数は一番多く97曲である。内容は、①「自由リズム」②「マーチ」③「スキップとダンス」④「リズムゲームと模倣」⑤「各国のダンス」の5種類にグループ分けされている。種類ごとの曲数は、表3の通りである。

ここでは、①「自由リズム」と④「リズムゲームと模倣」のグループにおける曲をそれぞれ表4と表5に示す。

①「自由リズム」は、モンツやアンダーソンの曲集には見られない区分である。ここでの曲は、歩く、走る、つま先で歩く、跳ぶ、滑るなど、単純で短い活動が多い。また、同じ歩くにしても、歩いて友達と挨拶を交わす、つま先で歩く、優雅に歩くーどしどし歩く、などのように、さまざまな歩き方や、対比的な動きがある。また②「リズムゲームと模倣」では、シーソーやボール投げ、木馬等の遊び、蛙やりすなどの動物の動き模倣するための曲があり、「自由リズム」と比べ、腕や腰を使う、速く走って急に歩く等、動きの種類の増加と表現の多様化が見られる。

表3 第2巻「リズム、マーチとゲーム」における音楽の種類と曲数

	種 類	曲数
①	自由リズム	14曲
②	マーチとダンス	23曲
③	スキップとダンス	19曲
④	リズムゲームと模倣	27曲
⑤	各国の歌とダンス	14曲

16) Recent Literature (1901) *The Kindergarten Review*, Vol. 11, pp. 301-302, Milton Bradley Co.

17) Beebe, Katherine (1904) *Kindergarten Activities*, The Saalfeld Publishing Co. pp. 31-32

18) Montz, Katharine (1894) "INSTRUMENTAL SKETCHES FOR KINDERGARTENERS" *Kindergarten News* No. 8 Vol. 4, p. 268, Milton Bradley Co.

19) Montz, Katharine (1894) *INSTRUMENTAL SKETCHES FOR KINDERGARTENER*, Milton Bradley Co.

20) Anderson, Clara L. (1896) *Instrumental Characteristic Rhythms*, C. L. Anderson Publishing Co.

21) Hofer, Mari R. (1902) *Music for the Child World, Vol. II Rhythms, Marches and Games*, Clayton F. Summy Co.



### 3-3 3つの曲集におけるリズム活動の特徴

3つの曲集で共通していることは、行進、スキップ、跳ぶなどの動きのための曲があること、また自然物や自然現象、生活や遊びなど、子どもにとって身近な題材を取り上げ、それらを模倣するための曲が掲載されていることである。それらの曲のいずれも、題材の特徴をよくあらわす曲想を持っている。

モンツとアンダーソンの曲集では、模倣をする題材は自然物や自然現象、子どもにとって身近な生活の道具などが中心であるが、ホッファーの曲集では、子どもの遊びに関する題材が多い。こうした子どもの生活に身近な題材が取り上げられているのは、「想像的な活動は、家庭や近隣の生活の再現を中心にして行う」<sup>22)</sup> という、経験の再構成を重視した進歩主義的な考えが反映されているのではないだろうか。

また、ホッファーの曲集では、自由リズムとして、子どもの普段の自然な動きやまた対比的な動きが取り上げられている。この「自由リズム」についてホッファーは曲集の序文において、「様々な自然な動き（歩く、走る、つま先・かかと歩き、跳ぶ、滑る等）の中に、自分自身のリズムを子どもたちが見出すことを導く」と述べ、最初の段階では、子どもにとって自然な動きを、簡単なゲームや模倣表現の中で音楽のリズムを通して経験させ、リズムを意識し、また動きの操作性を獲得させ、次の段階への準備とすると述べている。このように、最初の段階の「自由リズム」において、まず子どもが持っている自然な動きのリズムを音楽と共に動くことによって意識させることから始まり、次第に子どもの想像力をかきたてながら様々な動きのリズムを経験させ、音楽のリズムに合わせて身体を調整する力を育てる。そして、次の段階の「リズムゲームと模倣」では、さらに複雑な動きをすることによって、身体的発達や想像性の発達を促すのである。ホッファーは、本書の序文で「芸術的な価値以外にリズム活動は子どもの身体的協応を高める有用性がある」と述べており、本書には、音楽を通した多様な動きの経験を通して、子どもの身体能力を高めようとする視点があることがわかる。これは、当時の児童研究の中で、末端の筋肉を使うよりも先に、身体全体を使う運動を取り入れることが強調されたことの影響だ

と思われる。

また、リズム活動においては、子どもたちは全員で大きな円を作り、その中央に出て動いたり、円形に並んで動いたり、さらに数人で動くなどする。アンダーソンの曲集の序文においては、「リズム活動は他のどの活動よりも、子どもたち同士に調和した関係をもたらす」と述べ、リズム活動に子どもの社会性に対する価値を見出していたことが伺える。

以上のことから、当時のリズム活動では、子どもの身体発達を促すために、歩く、走る、スキップなど身体を大きく動かす活動が取り入れられ、またそれらを音楽のリズムと共に行うことによって、身体調整能力を育てること。また、子どもの生活に身近な自然や事象、物や遊びを音楽の力を借りて身体で模倣することを通して、社会の認識を深めることが目指されていたと考えられる。

## 4 おわりに

本稿では、20世紀初期の米国幼稚園におけるリズム活動の特徴について、当時出版された3つの曲集を通して考察した。その結果、リズム活動を通して子どもの運動能力を高め、社会の認識を深めようとしていたことが明らかとなった。リズム活動を通して身体の発達を促すことや、社会の認識を深めるといふねらいは、石原キクの「律動」の中にも見られ、両者の共通性を見出すことができた。今後は、米国の幼稚園におけるリズム活動や音楽活動が、大正期以降の日本の保育に影響を与えた点について、さらに考察をしていきたい。

### 引用・参考文献

- Anderson, Clara L. (1896) *Instrumental Characteristic Rhythms*, C. L. Anderson Publishing Co.
- Beebe, Katherine (1904) *Kindergarten Activities*, The Saalfield Publishing Co. pp. 31-32
- Hofer, Mari R. (1902) *Music for the Child World, Vol. II Rhythms, Marches and Games*, Clayton F. Summy Co.
- 藤原保利 (1992) 「アメリカにおけるフレーベル主義幼稚園の批判とカリキュラム改造に関する一考察—1890年～1923年までを中心に—」 教育学雑誌第26号 pp.18-36 日本大学教育学会
- 井本美穂 (2014) 「米国の20世紀初期における幼稚園音楽カリキュラム—『幼稚園カリキュラム』『幼稚園と第1学年のカリキュラム』における音楽の位置づけ—」 音楽学習研究第10巻 pp. 73-84

22) 藤原保利 (1992) 「アメリカにおけるフレーベル主義幼稚園の批判とカリキュラム改造に関する一考察 —1890年～1923年までを中心に—」 教育学雑誌第26号 pp. 24 日本大学教育学会

- 井本美穂 (2015) 「20世紀初期の米国における幼稚園の音楽活動—雑誌『キンダーガートン・レビュー』の検討を通して—」中国四国教育学会教育学研究紀要第61巻 pp. 131-136
- 持田葉子 (2015) 「広島女学校附属幼稚園における音楽活動について～広島女学校附属幼稚園・保姆師範科編集『遊戯唱歌』の考察を通して～」聖和短期大学紀要第1号 pp. 39-47
- Montz, Katharine (1894) *INSTRUMENTAL SKETCHES FOR KINDERGARTENER*, Milton Bradley Co.
- 中島弘子、草吹育子、鈴木智子 (2001) 「「律動」に見る石原キクの保育理念」彰栄表現研究所紀要第1号
- ニーナ・C・バンデウォーカー著 中谷彪訳 (1987) アメリカ幼稚園発達史 教育開発研究所
- 二宮紀子 (2014) 「リズム活動に見られる模倣表現に関する考察その1」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第25号 pp. 21-30
- 斎藤公子 (1994) 「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社
- 坂田嘉郎 (1973) 「アメリカ幼稚園運動におけるプロGRESSIVE幼児教育論—P. S. ヒルを中心にして—」聖和女子大学論集3号 pp. 35-51 聖和女子大学
- 高橋フミ (1979) 「石原キク先生 (人でつづる保育史)」『幼児の教育』第78巻第9号 pp. 22-27
- 土川五郎 (1917) 「幼稚園の遊戯に就て」『婦人と子ども』17巻9号 pp. 330-336
- 土川五郎 (1918) 「リズムについて」『婦人と子ども』18巻2号 p. 46-48
- 土川五郎 (1918) 「律動遊戯の過去及将来」『婦人と子ども』18巻4号 pp. 134-138

表1 モンツ『幼稚園教師のための器楽小品集』の内容

	曲 名	拍子	調性	各曲に記載の解説
1	お祈り	4/4	ヘ長調	朝のお祈りための良い雰囲気を作る
2	朝の挨拶	4/4	変ロ長調	夢想曲、静かな朝の集会のために
3	飛ぶ鳥	3/4	変ホ長調	記載なし
4	行進	4/4	ハ長調	拍子を強調して、明確な動き
5	出火警鐘	2/4	変ホ長調	・警鐘がなる・火事までギャロップ・火が消えた合図・馬がゆっくり帰る
6	走る	2/4	変イ長調	小さな子どもやリスが走る
7	しぼんでいる花	6/8	ヘ長調	しぼんでいる花、目覚める花
8	木を切る	4/4	変イ長調	切る動き、パンをスライスするなど、音楽は要求に応じて速くしたり遅くしたり
9	ミシン	6/8	ト長調	ペダルや針の動きを示す速さで
10	ポンプ	4/4	ヘ長調	ポンプの動き、ふいごを吹く
11	草刈り	4/4	ヘ長調	小麦や草を刈る
12	鶏のエサ蒔き	4/4	ニ長調	餌を蒔く、最初は片手、音楽が変わったら次に両手で
13	北風	4/4	ニ短調	木の実が落ちる表現をする時は、小節の1拍目を強調する
14	つま先行進	4/4	ハ長調	つま先で歩いているように、軽く歩く
15	蝶	3/4	変ホ長調	記載なし
16	種、花が開く	6/8	ヘ長調	記載なし
17	凍る川	6/8	ヘ長調	夢の中にいるようにとてもゆっくり走る
18	川の凍りが溶ける	3/4	ヘ長調	凍りは溶け、優雅な音楽で全て目覚める
19	馬歩き	4/4	変ホ長調	馬やロバのトロット（速足）、水たまりや石の上を歩く時にも使う
20	揺れるゆりかご	6/8	ト長調	ゆりかごや椅子がゆれる、身体をゆらす
21	煙	6/8	変イ長調	音楽の変化によって方向を変える
22	教会の鐘	4/4	ハ短調→ハ長調	教会の鐘、教会に行く、教会を出る
23	干草を積み上げる	4/4	ニ長調	草を掃いて集め、それを軽く上に投げる
24	つま先行進	4/4	ハ短調	つま先で歩いているように、軽く歩く
25	旗	4/4	ト長調	旗や風が、風が吹いて揺れている動き
26	蝶	3/4	ヘ長調	記載なし
27	円を作る時の行進	2/4	ヘ長調	円を作る時の音楽
28	行進	4/4	ト長調	拍子を強調して、明確な動き
29	スキップ	4/4	ヘ長調	最初の4小節は相手を選ぶ
30	機関車	6/8	ト長調	記載なし
31	鍛冶屋	2/4	変ホ長調	音楽の速さに合わせて馬蹄をうつ
32	行進	4/4	ハ長調	記載なし
33	荷物の積み下ろし	4/4	ト長調	記載なし
34	製粉機	6/8	変ホ長調	腕を使って車輪を表す
35	洗う	2/4	ヘ長調	洗う動き、8分音符では短い動き、4分音符では長い動き
36	行進	4/4	変ホ長調	拍子を強調して、明確な動き

表2 アンダーソン『器楽による典型リズム集』の内容

	曲 名	拍子	調性	各曲に記載の解説
1	日光	6/8	変ホ長調	光、幸福を思い浮かばせる、軽く少し早めに演奏する、子どもたちへ伝える効果は、明るさや幸福な雰囲気、手押し車や北風の音楽とはとても対照的。身体のみわりの腕を揺らす動きは、メロディと結びついている。
2	スキップ	4/4	変ロ長調	最初の4小節はパートナーを選ぶ。子どもたちが一人でやりたい場合は省略する。
3	行進	2/4	ヘ長調	マーチを弾く時は、速さを一定にリズムカルに弾く、また4/4では1拍目と3拍目に、2/4では1拍目にアクセントをつける。4/4では4分音符ごとに一歩ずつ、2/4では8分音符ごとに一歩ずつ歩く。
4	円を作る	4/4	ト長調	この4小節の曲は、子どもたちが円を作る時に役立つ。4分音符ごとに一歩進む。
5	行進	4/4	ト長調	記載なし
6	手押し車の車輪	4/4	ト短調	秋のゲームに必要。陰気なメロディが車輪の回転を連想させる。各小節の1拍目と3拍目に強いアクセントをつける。
7	スキップ	4/4	ヘ長調	最初の4小節は、導入として少しゆっくり弾かれ、その間子どもたちはパートナーを選び、3小節目の長く伸ばす所でおじぎをする。そしてスキップの準備に入る。スキップは平易なスキップである。最後の8小節は、パートナーを元の場所に連れて行き、小さなおじぎをして自分の場所に戻る。
8	刈り入れ	6/8	変ロ長調	カマを振り下ろす所、すなわち各小節の1拍目にアクセントをおく。
9	歩く馬	2/4	変ロ長調	馬が歩く動きを音で表す。体のバランスをとること、筋肉の発達を助ける。ひざはおしりの位置まで高くあげる。
10	行進	4/4	ハ長調	記載なし
11	北風の音	2/4	変ホ長調	このメロディは風の音の表現で、風の動作が出てくるゲームで使うことができる。例えば、煙や葉が揺れる、麦の穂が曲がる、小さな花や草が揺れるなど。始まりはとてもやわらかく弾かれるべき。少しずつ大きくなり、その後だんだん小さくなる。
12	馬、トナカイが走る	4/4	ヘ長調	子どもが走るリズムを感じられるように、左手のベースをはっきりと同じ速さで弾く。また小さなアクセントを拍の頭につけるとリズムがはっきりする。
13	行進	2/4	ヘ長調	記載なし
14	スキップ	4/4	ヘ長調	記載なし
15	行進	4/4	ト長調	記載なし
16	雨粒	4/4	イ長調	この作品の演奏のためには、タッチの精密さと繊細さが必要である。子どもたちが雨粒の表現をするために、その小さな足は、音楽の主題のパターンによって導かれなければならない。そのために、軽く手首を効かせたスタッカートを用いる。音色の色彩、明暗、強弱が子どもに雨の勢いを示す。これにより、音色の質を子どもたちが素早く知覚することを促す。
17	飛ぶ鳥	6/8	変ホ長調	始まりから6小節目までのメロディは、鳥の飛行を表し、7小節目のピッチカートの音は強く弾かれ、鳥が弾んで歩いていることを表す。この7小節目のテンポはかなり遅くなり、8分音符ごとにジャンプする。
18	跳ぶ	4/4	ト長調	この曲は、ピッチカートで演奏されるべき。短く、はっきりとした音を作る。子どもが一つの石から別の石へとジャンプするように。この曲はゲームの中で用いられ、子どもに合わせて速さを調節する。ジャンプは8分音符ごとに行う。子どもがリズムに意識を向け、リズムと動きが結びつくよう、同じ速さを保つようにする。
19	自然の目覚めと眠り	4/4	ト長調	この小さなメロディは、春と秋のゲームと結びついている。春のゲームでは花や種の目覚めと成長のゲームで、メロディはやわらかくゆっくり弾かれる。そして子どもに自然の成長を示唆する。草花が眠る時も同じこのメロディが使われる。
20	スキップ	4/4	ヘ長調	記載なし



表4 『子どもの世界のための音楽第2巻：自由リズム』の内容

	曲 名	拍子	調性	各曲に記載の解説
1	朝の挨拶	2/4	イ長調	遊びの輪へ歩いて行く時に。陽気で幸福な雰囲気。愛らしいが、速すぎず。
2	アルバムリーフ	2/2	ヘ長調	歩く動き。行儀の良い雰囲気。歩いて友達にお辞儀をして挨拶をする。
3	走れ、走れ、走れ	2/2	ハ長調	走る動き。軽いスタッカートで弾く。
4	鬼火	4/4	ヘ長調	軽やかに歩く。軽く、鋭くはっきりとしたアクセントで弾く。とても速い動きのために、2倍の速さで弾くことにより、対比を生み出す。
5	つま先で	4/4	二短調	つま先で歩く動き。両手を頭の後ろに置いて、胸を張ってしっかりとしかし弾んで歩く。2つめのパートは曲想が変わり、ゆったりとリラックスした動きで。
6	妖精の歩行	2/4	ト長調	平衡感覚のために。優雅に、弾んで歩く。
7	操り人形	3/4	ト長調	跳ぶ。子どもの動きに合わせるために中くらいの速さで弾く。
8	影	2/2	イ短調	対比の動き。この曲は、軽くー重く、優しくー大きくなど対比の効果が見事である。妖精ー巨人など様々なゲームに導入できる。
9	妖精	2/4	二短調	つま先とバランをとる動き。腰から前かがみになり、膝から弾む動き。
10	ガヴォット	4/4	ト長調	歩く動き。速く、遅く。
11	最初のダンス	3/4	ヘ長調	すり足、すべる動き。
12	鬼ごっこ	2/4	ハ長調	タッチして走る。すべての鬼ごっこのために良い曲。軽く弾く。
13	鬼ごっこ	6/8	ニ長調	タッチして走る。輪を作り、鬼が輪のまわりを走り別の子どもをタッチし、鬼をかわる。それを繰り返す。
14	ガヴォット	4/4	ト長調	最初の4小節でパートナーを選びお辞儀。

表5 『子どもの世界のための音楽第2巻：リズムゲームと模倣』の内容

	曲 名	拍子	調性	各曲に記載の解説
1	スウィングソング	6/8	変イ長調	揺れる動き。片方の足からもう片方の足へ揺れる。漕ぐ、泳ぐ動きにも。
2	ゴルフ遊び	6/8	ハ長調	ゴルフクラブ（腕）を振る、ボールを打つ、ボールの所まで歩く。
3	フープ廻し	6/8	ト長調	走る動きと腕を回す動き。
4	ボール投げ	6/8	変ロ長調	ボールをバウンドさせる－取る、投げる－取るの動き。
5	小さなジャグラー	4/4	ハ長調	投げるとバランスをとる。ボールや棒が空中で回転する様子をイメージして動く。これは良い腕や身体の動きを与え、バランスを取ることを助ける。
6	木馬	6/8	変イ長調	
7	自転車	6/8 4/4	ト長調	車輪を回しているようなお尻の動き、滑降、走る動き。
8	メリーゴーラウンド	6/8	ハ長調	4人の子どもが輪の真ん中で、お互いの右手をつないで引っ張りながら輪の中を走り回る。他の輪の子どもは、仔馬などに乗っていることを想像し、ゆっくりから出発してだんだん早く走り、再びゆっくりになる。
9	メイボールの下で	6/8	変ホ長調	単純な揺れる動き。
10	風あげ	6/8	変ホ長調	この特徴的な曲は、風がはためき、舞い上がり、飛んで、走っている様子をよく表している。
11	竹馬	4/4	イ長調	引っ張るリズム。この動きにおいては身体はピンと張られ、とても短く歩く。両手は想像で竹馬を握る。場合によっては楽しい要素を加えて走ってもよい。
12	びっくり箱	2/4	ハ長調	跳ねる動き。伸びやかに膝から上に跳ねる動き。子どもたちは輪の付近に屈んで、創造で箱が空いた時、まるでばねの上にいるように跳ね返る。
13	縄跳び	6/8	ハ長調	バランスをとる動き。想像の縄を跳ぶことは、年長の子どもたちによって容易に反応できる大変良いリズムのテストである。これは、銘々の子どもが個々の縄を飛ぶなど、いろいろな遊びができる。
14	シーソー	6/8	イ長調	リズムゲーム。これは、様々に遊べる。二人の子どもが手を取って片方がかがんで片方が昇る。
15	蛙とび	4/4	ハ長調	このリズムは、蛙や他の跳ぶものに関わらず良いジャンプの動きである。
16	熊の踊り	2/4	ト短調	ゆったりとした動き。ひざを曲げることによって熊の長い体と短い足をまねる。ぐらぐらする動き。爪のある足のように手を上にあげ、ひじから腕を持ち上げる。熊のおどけた様子を想定する。
17	おどけた象	2/4	ハ長調	おどけた象。
18	リス	4/4	ニ長調	このリズムはリスがキャッキヤと鳴くように元気に動いて走る模倣。
19	七面鳥	2/4	イ短調	七面鳥のもったいぶった歩き方。
20	ホロホロ鳥	2/4	ハ長調	ホロホロ鳥の慌てて逃げる模倣。
21	あひる	2/4	ト長調	よたよたした動き。重々しいタッチで弾く。
22	鳩	6/8	ニ長調	鳩
23	ひばり	3/4	ト長調	飛ぶリズム。平衡、傾き、足と腕のための動き。
24	楽しき農夫	4/4	ハ長調	種をまく、刈り取る、干し草をかき集めて積む。
25	冬の遊び	3/4	ハ長調	走る、滑る動き、雪玉遊び。
26	スケート	6/8	ト長調	滑る動き。
27	そり	2/4	ハ長調	そりの鈴とムチの音。急な足を高くあげる動き。